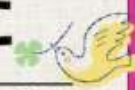




THEME

キライな自分のゆるしかた



presented by TONARIMACHI CAFE

今回のゲストは

松本俊彦さん

(精神科医)



松本俊彦 (まつもと・としひこ)

医師、医学博士。国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長。1967年神奈川県生まれ。1993年佐賀医科大学医学部卒業。神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科などを経て、2015年より現職。主著として、『誰がために医師はいる』（みすず書房）、「世界一やさしい依存症入門」（河出書房新社）、「身近な薬物のはなし」（岩波書店）がある。また、共著として『酒をやめられない文学研究者とタバコをやめられない精神科医が本気で語り明かした依存症の話』（横道誠氏との共著、太田出版）もある。

2026年 9月18日 金
19:00-21:00

〔開場 18:30〕

COLUMN

松本俊彦・横道誠・菊池真理子・二村ヒトシ・だいまりこ・加藤浩平著
『「やめられない」をどうするか：きみと同じことで悩んでいる大人たちの生存戦略』（金子書房）



精神科医、当事者、支援者が、「やめられない」を基軸に、ネット・ゲーム、人間関係、性の悩みなどについて若者たちに向けて語る。

「好き」と「しあわせ」と自分、どうしたらいいしょに手にできる？ しあわせになりたくて、誰よりも頑張ってきたはずなのに。好きだったからしていたはずなのに。どうしてこんなに不安なんだろう？ 恋愛、仕事、ダイエット、ショッピング、ギャンブル、薬物、リストカット。満たされなくて自分を壊す。生きたいからやめられない。依存Ⅱ自傷。その「自傷行為の多くは不快感情の軽減を目的としています。体を傷つけることで心の痛み、つらい記憶や感情を自分から切り離しているんです。でも、自傷行為が周囲に見られるケースは全体のわずか4%。多くは人知れず、孤独な対処としておこなっています」そう語るのは精神科医の松本俊彦先生。松本先生に質問です。依存、自傷させる孤独は医療でどこまで癒されますか？ 自分をゆるめる回復はありますか？ こたえを探したいみなさんといっしょに考えたいと思います。

依存と回復から考える 処方箋

メッセージ



司会は社会学者の
嶋守さやかさん
(桜花学園大学教育保育学部教授)

好評発売中！
嶋守さやかさんの著書

虐待被害者という勿れ(新評論)
いまを生きる、虐待サバイバーの言葉を伝える。「ひとりじゃないよ、つながろう」
訪問看護師ものがたり(新評論)
最期まで生きる人に沿い、支える訪問看護師たちのものがたり。本人と家族と訪問看護師をつなぐ「ご在宅の力」発見！



会場：隣町珈琲

(〒142-0053 東京都品川区中延3-8-7
サンハイツ中延B1
TEL 03-6451-3943)

東急池上線「荏原中延」
東急大井町線・都営浅草線「中延」
各徒歩5分

会場チケット / オンラインチケット

¥2,500

詳細・申込はこちらから→

